



第5号議案 令和3年度事業計画

会則第4条に規定する事業を行っていく予定です。

しかし、昨年来の新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、これまで通りのイベント、見学会、視察会などの事業を実施することが困難な状況です。今後しばらくは、可能な限りの情報提供、発信に力点を置きますので、会報等への投稿など積極的なご参加をよろしくお願いいたします。

第6号議案 令和3年度事業会計予算

収入の部

科目	金額	備考
1 会費収入	40,000	個人会員、法人会員
2 事業収入	352,000	冊子販売ほか
3 寄付金	30,000	寄付金
4 雑収入	1,000	受取利息ほか
当期収入合計(A)	423,000	
前期繰越正味財産	0	
収入合計(B)	423,000	

支出の部

科目	金額	備考
1 事業費	1,800	冊子発送ほか
2 管理費	338,000	会報印刷費、通信運搬費ほか
—	—	
—	—	
当期支出合計	339,800	
当期支出差額	83,200	(A)-(C)
次期繰越正味財	83,200	(B)-(C)

2. 舞鶴赤れんがパークの近況について

石原雅章(理事・市立赤れんが博物館勤務)

新型コロナウイルスが世界的に広まってからはや1年余りが経ちますが、ワクチンへの期待感が高まっているものの、具体的な終息時期の見通しは、依然として立っていない状況です。

赤れんがパークも昨年春の緊急事態宣言の発令に伴い1ヶ月半臨時休業となり、今年の春も再び臨時休業となりました。この間、新たな遊覧船が就航しましたが、自衛隊桟橋の公開が取りやめとなるほか相次ぐイベントの中止などもあり、本市を訪れる観光客も大きく減少し、宿泊、飲食店等へも大きな影響がありました。

赤れんがパークの来場者数は、近年70万人前後を推移してきたところですが、このコロナ禍で令和2年度は約25万人と6割以上減少しました。

こうした中、市においては、赤れんが周辺整備を徐々に進めており、赤れんが博物館前にあった3階建の建物を撤去、今年度後半には前庭として整備するほか、文庫山学園の7月移転なども進められています。

また、赤れんがパークの飲食や物販などの強化を図るため、2号棟～5号棟を対象に、民間事業者が資金を投入して公園の整備や運営を行う公募設置管理制度を導入して、この7月に民間事業者を公募し、来年度からの運用を目指すこととしています。

このコロナ禍が収まり、赤れんがパークに一日も早く賑わいがもどることを願っています。



博物館前の建物がなくなり自衛艦がよく見えます。



昨年就航した遊覧船(手前)

吉村昭著「白い航跡」は、軍隊の隠れた敵・脚気と闘った海軍軍医・高木兼寛の実話に基づく小説である。高木は薩摩藩郷土の家に生まれ明治5年から13年にかけて英国に留学、欧州に脚気がないことに気づき、日本特有の食事が関係するのかと意識した。彼は明治15年海軍の食事を洋食にすることを提案し高額になるとして反対されたが、翌16年「龍驤」艦が9カ月の遠洋航海に出て乗員15%の25名が脚気で死亡した事例に鑑み、次期の「筑波」艦による航海と比較・検証するべく同じ経路とし食事は洋食系にしてもらった。17年の「筑波」の航海で脚気による死者が出なかったことで主食を白米と麦との混合とすることなどを定めた結果、18年以降海軍での脚気死者はなくなった。同年海軍軍医総監となった高木は、このevidenceをもとに食物中の特定栄養素の欠損により脚気が発生するとする論文を医学雑誌に発表した。

高木のこの論文に対し陸軍省軍医部とその母体・東京帝大医学部から脚気細菌説（ドイツ医学）の視点からの反論がなされた。陸軍軍医総監・石黒忠憲や一等軍医・森林太郎（鷗外）らは、彼らなりの理屈を並べて反論し、また白米食、麦食、洋食による比較実験を行い、白米食が最優秀との結果を得て白米主体の陸軍食の正当性を主張した。森は生来論争好きで、その後も元老山縣有朋、石黒総監を後ろ盾に多数の論文を発表し高木説に徹底反論し続けた。

この陸軍の面子ないし意地の反発によって国民が払った代償は、あまりに高すぎた。陸軍では、日清戦役で戦死1417名に対し脚気死4064名、日露戦役で戦死46400名に対し戦病死37200名、その内脚気死27800名（75%）という惨状を呈した。因みに海軍の脚気死は日清で0、日露で3名だった。また日清戦役直後に森は一時台湾総督府陸軍局軍医部長に就いたが、そ

の間の派遣兵士23338名中の脚気患者は21087人（90%）、脚気死は2104名とされている。森の責任は重大であったが、生涯これらの失策を認めず謝罪もしなかった。大正13年に陸軍はやっと脚気の原因をビタミンB<sub>1</sub>の欠乏と認めしたが、森自身は1年9か月前に世を去っていた。

昭和初期以降に軍の中枢官僚は無謀な作戦を実行し、多くの兵士を犠牲にした事象はよく知られるところだが、森は軍医ながら明治期に早くもその範を示していたのか。即ち組織の面子を保つため失敗を隠蔽する、反省しない、謝罪しない、よって責任をとらないというパターンである。森が陸軍の脚気大量死に直接的に関与した事実は、昭和56年に東大教授・山本俊一氏が初めて指摘した。高名な文豪ゆえにその別の顔を明かすのに没後60年も要したのであろうか。

ともあれ、高木海軍軍医については、彼のお陰もあり日本海海戦の完勝があり、その後海軍食の肉じゃが、カレーが広く普及し、国民病といわれた脚気もなくなったことは再認識されるべきであろう。（数字は資料により異同があります）

#### （参考）

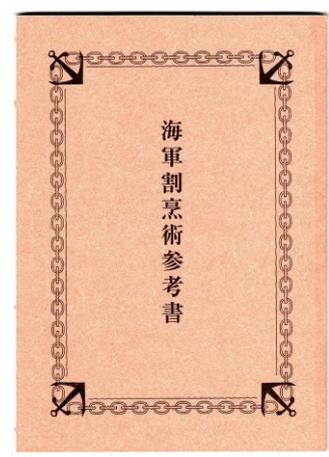
旧海軍の「海軍割烹術参考書」（明治41年）、「海軍厨業管理教科書」（昭和13年）などは、夫々後にカレーシチュー⇒カレーライス、ビーフシチュー⇒甘煮⇒肉じゃが、と変遷した原型を示している。旧軍港4市では、「まいづる肉じゃが」「よこすか海軍カレー」「海軍さんのビーフシチュー（佐世保）」「呉海軍カレー」などと銘打ち海軍食の伝承・普及に努めている。なお「海軍割烹術参考書」の復刻版（税別500円）は舞鶴赤れんがパークの売店で販売中。



若き日の高木兼寛  
（東京慈恵会医科大学）



若き日の森林太郎  
（文京区立森鷗外記念館）



「海軍割烹術参考書」復刻版

### 1 旧陸軍被服支廠の保存へ向けて

広島市に残る旧陸軍被服支廠4棟は1913年頃の現存最古級の鉄筋コンクリート造り・外壁赤煉瓦の建築物で、重文級という研究者もいます。1945年8月6日の原爆投下の際は、臨時救護所となり多くの負傷者を受け容れました。外観も爆風で曲がった窓枠や鉄扉が残るなど原爆の悲惨さを物語る「証人」です。近年老朽化や財政難から解体する案もあり、市民や県議会などから貴重な歴史遺産として保存すべしとの声が出ていました。これを受け広島県はさる5月19日4棟の内の県所有の3棟について耐震化工事を実施する旨発表しました。県は2023年には着工したいとしていますが、本格的な保存については今後の課題となっています。舞鶴市には、旧海軍倉庫群（重要文化財）を転活用した赤れんがパークがあり、広島の4棟とは色々共通点がありますので、今後これらの保存が本格化した際には、当倶楽部としてどのような協力ができるか検討したいと考えております。



広島の日陸軍被服支廠跡 (wikipedia)



1944年の陸軍被服支廠の様子 (wikipedia)

### 2 編集後記

任意団体となった赤煉瓦倶楽部の会報ですが、従来からの通し番号で第115号とさせていただきます。当分コロナ禍が続く中活動の範囲も限られますが、トンネルの向こうに光が見え始めています。今は将来の活動計画を企画して楽しむのもよいのではと思います。さて、今回のコロナ禍ではPCR検査が一向に進まないなど初期対応の遅滞が目立ちました。ある医事研究法人の見解では、我が国の感染症検査では戦前の陸軍の流れが引き継がれて、権限の囲い込みが行われているからだということです。今号では陸海軍の確執について触れましたが、戦後70年数年経っても旧官庁の権限の壁が引き継がれているとしたら、啞然とせざるをえませんね。

法人目的（要旨）：赤煉瓦を活かしたまちづくり活動、赤煉瓦ネットワークによる他市のまちづくり支援等。

会員の資格：会費納入者 年会費（個人1,000円、団体5,000円）。ご寄附も受け付けます。

会費・寄付等：ゆうちょ銀行 四四八店（ヨンヨンハチ店）普通 3679505 口座名義 アカレングラブマイツル